

# 令和3年度 第2回八雲町総合開発委員会議事録（要旨）

## 【開催日時・場所】

令和4年3月29日（火）午後1時30分～午後3時30分

八雲町役場議員控室

## 【出席者】

委員：大野 尚司、近藤 安幸、本田 貴臣、梶田 孝女、久保 扶佐子、能代 常男、浅沼 真、西田 浩人、阿部 政邦、上田 倫央、小笠原 英毅、青沼 千鶴、長谷部 修、佐藤 馨、東間 和浩（15名）

町：岩村町長、成田副町長、土井教育長、竹内総務課長、川崎財務課長、野口地域振興課長、竹内総合病院事務長、川口政策推進課長、上野政策推進課長補佐、渡辺協働推進係長、多田企画係長、長谷川企画係主任（12名）

傍聴者：なし

## 【要旨】

- 会長・副会長を選出した。
- 第2期八雲町総合計画実施計画（R4年度～R6年度）について説明し、質疑を受けた。
- 令和4年度予算の概要について説明し、質疑を受けた。
- 事務事業評価に係る町民評価について説明し、質疑を受けた。

## 【内容】

### 1. 開会

### 2. 町長挨拶

### 3. 会長・副会長の選出について

会長に八雲町町内会等連絡協議会会長 大野 尚司 氏、副会長に熊石町内会等連絡協議会会長 井口 啓吉 氏を選出した。

### 4. 報告事項

#### （1）第2期八雲町総合計画実施計画（R4年度～R6年度）について

多田企画係長の説明後、質疑応答。

【阿部委員】 今月の定例町議会の中でもかなり時間を費やして赤井議員が二海サーモンの件について質問していて、その答弁で町長が「養殖事業が合わなければ止める」「方向転換もあり

得るし、赤字なら止める」という話をされている。当初の計画は東野や熊石の漁民の仕事の領域を広げるということでやってきたと思うが、結果的に3サイクル目に入って、東野は一時休止となった。熊石については令和元年度、令和2年度は正会員が37人しかいなく、しかも高齢化していて、当初の目的から離れている気がしてならない。道の試験場や上八雲の施設を買うということで、町民が初めに同意したのからかけ離れている状態になっていると感じる。万が一、合わなければ止めるとか、赤字なら止めるということだが、その間投資したお金はどうなるかということに言及されていないので、大変危惧している。上八雲の施設を5000万円で買い取るということだが、施設を第三者に評価させたのか。総じて、大きくなりすぎて結果的に後戻りできない状態を危惧している。

**【町長】** サーモン事業の当初の目的というのは、熊石側の産業活性化が大きな目的ということで始めたので、阿部委員との見解が違うが、漁業者のみならず熊石地域の活性化を目的として始めた。落部側については、サーモン養殖事業に着手する頃がホタテのへい死などで大変な時期で、ホタテに代わるものとしてサーモン養殖試験をやってみたいとなり、途中から参入した。町として支援をしていたが、3年で一区切りをつけて終わった。議会答弁で「合わなければ止める」と言ったのは、あくまでも奥尻島でやる2000トンクラスのサーモン養殖事業のことで、言葉足らずだったと思う。ふ化事業については、採算は見込めている。ふ化事業、中間育成は木古内・知内・上ノ国・江差・乙部・せたな・奥尻・岩内・神恵内・泊で組織する協議会を中心に進めていくこととしており、八雲町だけでなく広域的に取り組むので北海道から支援を頂きたいということで、道職員を派遣いただくこととなった。中間育成については儲からないが採算は取れるということで自信をもってやっている。北海農園の施設購入については賛否両論あるが、50万尾位を養殖しなければコストダウンできないので、50万尾を目指すこととしている。青森で先進的に取り組まれている社長さんから、ふ化事業の一番の問題は全滅する危険性と聞いており、もう1箇所ふ化場が必要となった。本来であればもう少し後にも買って良いが、丁度売りたいということがあり、土地・建物の評価については、我々としては5000万円に疑問を持っているが、相手方が5000万円位で売りたいということだった。ボーリング調査や色々な調査に数千万円かかると認識しており、町としてもふ化場があることで余分なお金がかからないということで、ご理解願いたい。

**【阿部委員】** 今年の町政執行方針の中でゼロカーボン打ち出し、2050年に二酸化炭素排出量をゼロにするということだが、この資料には街路灯のLED化、熊石の小水力発電は書かれているが、これらの他には無いようなので取り組みが弱いのではと思う。環境省はゼロカーボンアクション30ということで30項目を掲げて履行を国民に求めている。八雲町も町民に対してゼロカーボン化の旗振りをするという意味からすれば、環境省のような取り組みを町民に対して啓蒙していく必要があるのではないかと。

**【町長】** 町としても旗振りをしながら先行してやっていきたい。小水力もあるが、コンブが二

酸化炭素削減に大変有効ということで、今年の8月から熊石の海洋深層水を使って研究を始める考え。八雲町だけがやるということだけでなく、団体や会社、組織、個人の方々にアピールする必要があると今の阿部委員の意見で感じた。色々な方策を取り組んでみたい。

**【佐藤委員】** 9ページ中段の「日本海ニシン栽培漁業定着事業」について、今年はすごく豊漁と聞いているが、現状を聞きたい。

**【町長】** 今まで全道の日本海側でニシンの放流をやってきたが、江差では数年前から、乙部では去年から群来ができて獲れているということ。熊石では今年刺し網漁をしたところニシンが獲れたので、熊石にもいよいよニシンが来るようになったのかと期待している。

**【佐藤委員】** 木彫り熊の発祥から100年を迎えるということを伺っているが、具体的には実施計画に載っていないので、どのようなことを考えているかお聞かせ願いたい。

**【教育長】** 古くから始まっている木彫り熊の技術を伝承していくため、資料館において木彫り熊講座を実施している。毎年10名の希望者を募ってコロナ禍においても8名程度の参加を得てかなりの回数の講座を開催している。木彫り熊を彫っていききたいという方々の参加を得て講座を続けているし、できる限り八雲町に木彫り熊を伝える方が欲しいということで、千代さんにも頑張ってもらって講師を続けていただいているが、工芸とか芸術にも経験のあるような資質を持った方を協力隊として募集して、後継者育成の道を探っていきたい。実施計画16ページに載っている「木彫り熊デザイングッズ企画開発事業」については、学芸員の頑張りもあって木彫り熊が色々な誌面やネットで取り上げられ、興味を持って下さる方が全国的に増えてきていることもあり、木彫り熊をモチーフにしたグッズを10種類ほど作るというもの。八雲町と共同でグッズを作り上げていくことができ、それをお店なりインターネットでPRするノウハウを持っていて、若い層を顧客とする事業者さん1社と契約する。この事業で八雲町の魅力を広げ、木彫り熊の魅力を知って貰える取り組みということで令和4年度予算の可決を頂いた。新年度に入ったら早速進めていきたい。

**【佐藤委員】** これは木彫り熊100周年事業ということか。

**【教育長】** これは100周年事業ということではないが、式典という形式を取るよりは変わった形でやっていきたい。具体的にはこれから検討を進めてまいりたい。

**【佐藤委員】** 14ページ下段の「小牧市・八雲町児童学習交流事業」について、令和4年度に予算計上されているが、受け入れ体制等どのようなになっているか。

**【教育長】** コロナの関係で交流事業を休んでいる。これまで小牧市との相互交流については、ホームステイで交流していたが、八雲町側の受け入れがホームステイでは難しいということで、なかなか八雲町側の希望者がおらず、掘り起こしながらなんとか募っていた状況がある。教職員の働き方改革という波もあり、夏休みに教職員にかなり大きな負担をかけて事業展開していくことが難しくなった。小牧市から、令和4年度の募集をかけるかどうか悩ましい状況と聞いている。小牧市からの要望にも沿いながら、今後の事業の在り方を考えていきたい。

**【佐藤委員】** 16ページ中段の「小牧市・八雲町交流30周年記念事業」は終わったか。

**【町長】** 「小牧市・八雲町交流30周年記念事業」については、平成30年度に尾張徳川家と私が小牧市に出向いて、式典や交流会に参加した。

**【佐藤委員】** 17ページ中段の「職員交流・派遣事業」について、どういう課に配属するのか、町職員にはどのような影響、効果があるか伺いたい。

**【町長】** 商工観光労政課に配属した職員は丘の駅の運営、観光や物産振興に大変尽力していたが、農林課に配属した職員には、研修牧場立ち上げに貢献していただいた。サーモン事業は、八雲町だけに留まらない事業なので、北海道から2年間の職員派遣をいただくこととなった。ただ、佐藤委員仰るとおり、八雲町の職員も本来ならば出向・派遣させたいが、この数年、役場職員のなり手が無い。今も1次募集、2次募集で採用できなかった分を3次募集しているところ。応募が来ない原因を探り、職員が入りやすい職場にしなから、職員を色々なところに派遣してスキルアップし、八雲町の未来を見据えていきたい。

**【東間委員】** 計画の中で新規事業が星印で掲載されている。新規事業の中には事業費が具体化されていないものもあって当然だと思うが、そういったものを進めるにあたっては、事業規模にかかわらず担当課を中心に幅広く町民からの意見を聴いた上での事業立ち上げを強く望む。私の認識不足かもしれないが、サーモン種苗生産施設整備事業（9ページ下段）は過去にサーモン養殖試験事業がらみで出ているかもしれないが、素早く行動を起こすという部分があるとはいえ、いきなり大きな事業が行われていることについては、担当部局に限らず、町民の意見を反映させて事業を進めていただきたい。当然この整備事業は令和4年度の金額だけで終わると思わないので、事業のビジョンは必ず町民に公開して意見を求めるべき。

**【町長】** 議会からも説明不足という指摘もあったので、しっかりと町民に説明しながら進めていきたい。分かりにくいのは、熊石側でやっているから八雲側の町民が目に見えないということもあるのかなと思う。さらに事業費が膨らむということは想定しておらず、種苗生産後は漁業者や各町がやることなので、八雲町が支援するということはない。あくまでもこのふ化事業についても北海道や国の力を借りてやりたいと考えている。その1歩としてふ化事業をやるということなので、丁寧に説明しながらやっていきたい。

**【青沼委員】** 木彫り熊100周年について、令和6年に来るのに何も書いていないことがとても気になる。これは計画を変更して事業費を振り返られることになっているか。また、「木彫り熊デザイングッズ企画開発事業」（16ページ上段）について、町とコラボする企業との権利関係や販売スキームをお聞きしたい。

**【教育長】** 具体的な計画はこれからなので、次回以降に実施計画に盛り込まれるということで押さえていただければと思う。令和4年度の880万のうち550万が委託費で、木彫り熊のデザインをモチーフにしたグッズを企画開発し、その著作権は八雲町が持つと考えている。企画開発事業者については著作権を無料で使用させ広めてもらうことになると思うが、基本的

には八雲町内の事業者がグッズ製造事業者からグッズを仕入れて販売する。当然、町内事業者にはロイヤリティを課すようなことはしないが、町外事業者が販売する時はロイヤリティを課すことになるかと思う。

**【西田委員】** 今日北海道新聞に八雲町の人事異動が出ていて、サーモンにかなり重点を置かれているなという感想を持った。参事という名前が色々なところに出ていて、特化した形で進められるんだなと。ただ、町民の方には色々な考えをお持ちの方がいるので、今まで積み重ねてきたまちづくりも継続していくことをPRする必要があると思う。メリハリの利いたまちづくりは魅力的だと思う。

**【大野会長】** 「サーモン種苗生産施設整備事業」（9ページ下段）の関係で、上八雲の土地はどのくらいの面積か。

**【町長】** 2.7ヘクタール位ある。ただ、ぬるいお湯が出ていて、そのお湯がふ化事業に良く、大変有効な施設だと伺っている。北海農産も相当お金をかけてボーリングをやってきたと聞いているので、業者の方が言う話では高くないということ。高くないかなという気もするが、ふ化事業に必要なだということで、議会にも理解いただいた。

**【阿部委員】** 土地代金は600万円位で養殖池とか建物が4300万円。道内ではサーモン養殖はしてこなかったが、道内で養殖されてこなかったのは養殖しなくても天然物が大量に揚がったから。ただ、去年の赤潮のように海がいつどう変わるかわからないので、そういう意味ではサーモンに目を付けたのは高いかもしれない。試験養殖とは違って、今度は卵のふ化からやるということ。それは青森県のオカムラ食品工業と合体してやるということだが、1箇所ですべてふ化事業をやると稚魚が死んでしまう可能性もあるので上八雲の施設を購入するということだが、今5000万円の施設を買う必要は私は無いと思う。相手は手放したい、こっちは買いたいと言っていて、不動産評価が明確にされていないので、もっと時間をかけて良い。議員でさえも良く分からないとか、説明を受けていないとか、総合計画に載っていないとか、自治基本条例40条違反とか50条違反とか、議会基本条例7条3項違反とか言われ、4名の議員が反対したという事態に陥っている。熊石の問題だからということではない。もっと考えながら事業を進めてはどうかというのが私の考え方。何度も言うが、37名の漁民のためにやった事業ではあるけれども、それが膨大に膨らんでいってにつちもさつちも行かなくなった時にどうするかということ。方向転換とか止めると言ったら投資した資金はどうするのか。東野漁港には3000万円くらい投資しているが550万円しか水揚げされていない。当然、初期投資はある程度必要で、初めは赤字でも仕方ない部分もあるが、落部漁協はやめてしまうということ。近隣町が本当に求めているかどうか不明確ではない。我々としては全てを町長に権限を委ねているということではないということをお願いしたい。

**【町長】** 熊石の37名の漁業者のためにやっているということではなくて、熊石の雇用を生む産業のためにやっている。確かにふ化場を今買うのは早いのかなと私も思うが、ふ化のため

に必要。昨年の結果では、サーモンのふるさと納税で4千数百万円を寄附いただいているので、半分のお金が町に残るとすれば補助した分は回収しているということになる。予算の概要を見ていただければわかると思うが、ふるさと納税のおかげで八雲町の基金がどんどん増えているなか、乱暴なことを言うようだが私は多少挑戦することも必要だろうと考えている。ふるさと納税の80%は町長に任せるという意向で、私は無駄になるようなことをしなければならぬこともあるのかなと。そんな思いをしながら、新たなことを進めて参りたいので、ご理解いただきたい。

**【阿部委員】** サーモンの養殖というのが、ノルウェー、チリ、オーストラリアが三大生産地。ノルウェー辺りは150万トンくらい、日本全体では百数トンということで単価が合わないので、競争力が無い。事業として危険性を孕んでいるということ。

**【町長】** 私は全然そう思っていない。今日もイオンさんが日本産のサーモンは大変有力だということで、現地を見に来た。確かにノルウェー産やチリ産は大量生産しているが、日本で一番生産している青森の業者は去年で1000トンの水揚げしている。ふ化から養殖までしていることがブランドになるし、私はサーモンが北海道、八雲、日本海の漁業の柱になると思っている。阿部委員との感覚は違うかもしれないが、私は進めるべきだと考えている。奥尻島に向かったの2000トンクラスは良く調査しないとできないなと考えている。私も合わないものを無理に進めるということはないので、ご理解いただきたい。

**【小笠原委員】** 是非二海サーモンの事業を大学と連携して取り組んではどうか。八雲町を直接大学にPRしたら若い人が来るのではと思う。マイナスもプラスになる。

**【大野会長】** 「役場新庁舎整備事業」(3ページ上段)に関連して、せっかく市街地に梅雲亭があるので、国立病院跡地ではなく、公民館跡地に木彫り熊の資料館を建ててはどうか。

**【町長】** コスト面の問題から1箇所にとどめるということで考えている。しかし、梅村庭園については地域の人や教育委員会と話し合っ、どう生かしていくか検討していくことにしている。地域の憩いの場などに使っていきたいと思うので、総合開発委員会の意見も聞くが、教育委員会や色々な方々の意見を聴いて整備していきたい。

**【大野会長】** 私は国立病院跡地に資料館を移しても、資料館を見に来た観光客が八雲市街地で買い物をせず、まちにお金が落ちないのではないかと危惧している。

**【町長】** 公民館の跡地をないがしろにしないで、あそこはあそこで人が集まる場所にして、徳川公園や国立病院跡地につくる資料館と連動しながら、人が動けるような、そんなことを想定している。

**【佐藤委員】** 人の動きを見ていると噴火湾パノラマパーク、育成牧場、梅村庭園、資料館というコースが多い。梅村庭園を軸にした資料館をどうするか、じっくり考えていただきたい。

## (2) 令和4年度予算の概要について

川崎財務課長の説明後、質問・意見を求めたが委員からの発言なし。

## (3) 事務事業評価に係る町民評価について

上野政策推進課長補佐、渡辺協働推進係長、多田企画係長から説明後、質疑応答。

**【阿部委員】** コミュニティ助成事業について、126町内会があるが総じて元気が無い。遡れば、平成3年に私が町連協の総務部長で町内会の合併を提案したことがある。その時に、八雲市街地、浜松、野田生、東野、落部の4つのブロックに分けて、合併の取り組みをした。今から30年前なので町内会にも活気があったがその時は、合併なんかとんでもない、町内会単独で十分だと言われた。30年経ってみて今は合併という面倒なことは考えたくないという風になってきている。私の所の町内会は136戸あり、10班に分かれていて、班長が会費を徴収することになっているが、毎年1つの班が会費を徴収できないから班長を遠慮させてくれという状況になっている。助成金を貰ったから元気になるとか、助成金が無いから元気がならないということではなくて、根本的にメスを入れなければならないが、メスをどう入れるかということも私分からない。コミュニティ助成は1戸当たり500円というのは大きいけど、それを何に充てるかと言えば、新しい事業を起こすということではなく、会費を下げることに繋がっており、うまく助成金が生かされていない。言い方は大変失礼だが、血にも肉にもならない状況で真剣に考えなければならないと思う。

地域高校就学支援事業については、助成されれば親も子も大変喜ばしいことではあるが、町外に進学する人たちが約40%となっており、お金を使っても根本的な問題には届いていないと思う。由々しき問題であり、庁舎内もしくは庁舎外でも構わないので、プロジェクトチームを立ち上げる必要があるのではと感じる。

木彫り熊100周年が令和6年に控えている。文化は100年経過して初めて文化と言われており残り2年。グッズを販売するのも取組の1つだと思うが、もう2年しかない中でそんなことで良いのかと考える。各家庭にあった木彫り熊が散逸している状況にあり、地域の中に眠っている木彫り熊を掘り起こして、「我が家の木彫り熊展」と題して展示してはどうかと提案したが、散逸は無いだろうということだった。木彫り熊を文化としてもっと大切にすべきではないかと思う。再任された土井教育長への激励の意味を込めて発言させていただいた。

**【町長】** コミュニティ助成事業について大変良い意見を頂いた。私は合併すれば良いと思っていましたが、そうではないという意見で、もっともだなと思っている。広報を配布する囑託員も高齢化の中でどうしようかと。郵便局に任せて送った方が良いのではとか、広報もデジタル化して配信してはどうかと色々考えている。プロジェクトチームを作った方が良かったので、阿部委員にはトップになっていただきたい。

**【教育長】** 地域高校就学支援事業については、中学生の高校選択に活かされているのかということで、仰る通りだと思う。高校授業料無償化以来、私学に向かう中学生の率が高まっている。私学も推薦入学をかなり広く受けているということもあって、子どもはやりたいことを私立高校に行ってやってみたいという願いが叶えられ易いという状況になっている。近隣の高校の間口は少ないが、八雲高校はまだ3間口残っている。森町や長万部町など間口の少ない所は助成を充実させるなど色々な手立てを打っている。長万部高校では交通費を満額助成しており、今年の八雲中学校卒業生の中に家庭の経済的事情で長万部高校を選んだと思われる生徒が1人いた。この事業は事業で活かされている部分もあるので、他の町がやっていることを検討していくことも必要と考える。

木彫り熊の100周年は、令和6年度に向けてどのような形で行っていくか、関係部署としっかり検討していきたいので、引き続きご助言をお願いしたい。

**【小笠原委員】** 事務事業評価の評価方法について、例えば地域就学支援事業だと、有効性の部分では「C」という判断で、自分たちでも低いと思っているのに「継続」という評価。2次評価は庁内評価で「継続」で「担当課評価の通り」となっていて、評価を評価することにあまり意味がないのでは思う。例えばここを改善するべきと書くなど、もう少し先が見える評価をした方が良いと思う。

**【川口課長】** 事務事業評価は例年100以上の事業を評価していて、まず原課の方でそれぞれ評価して、下段の二次評価については外部委員に評価していただいている。たまたまこの場で2つの事業だけ皆様方にご報告させていただいたが、当然反省するような事業もあり、外部委員から手厳しい指摘を受ける事業もある。指摘いただいた事業についてはしっかりと反映して翌年に改善している事業もある。

## 5. その他

特になし

## 6. 閉会